

「終末期医療に関する調査」 前回調査(平成 15 年)から回答傾向に変化のあった設問

○ 前回調査(平成 15 年)と今回調査(平成 20 年)を比較して、回答に 5%以上差がみられた設問とその所見を示した。

(1) 終末期医療に対する関心

【問 1】

近年、終末期医療に関して「安楽死」「尊厳死」「リビングウィル(書面による生前の意思表示)」などの問題が話題になっていますが、あなたはこれらに関心がありますか。(○は 1 つ)

看護、介護において、「非常に関心がある」者が増加した(看 44%→51%、介 40%→45%)。

(2) 病名や病気の見通しについての説明

【(医療従事者) 問 6】

あなたの担当している患者(入所者)が治る見込みがない病気に罹患した場合、その病名や病気の見通し(治療期間、余命)について、まずどなたに説明をしますか。(○は 1 つ)

医師で「本人へ」とする回答が年々増えた(48%→65%)が、介護職では「家族に説明」とするもの(68%→79%)が増えた。

【(医療従事者) 問 7】

あなたは病名や病気の見通しについて、患者(入所者)や家族が納得のいく説明ができていますと考えていますか。(○は 1 つ)

医師・看護・介護ともに「できている」とする回答が前回・前々回よりも減っており、介護職は顕著である。(医 87→85%、看 62→53%、介 77→53%)

(3) 治療方針の決定

【(医療従事者) 問 8】

あなたの担当している患者(入所者)が治る見込みがない病気に罹患した場合、その治療方針を決定するにあたり、まずどなたの意見を聞かれますか。(○は 1 つ)

家族の意見を聞くとした者が医師では減少(28→22%)し本人の意見を聞く者が増えていたが、逆に看護(11→20%)、介護(36→42%)では家族の意見を聞く者が増加して

いる。

(4) 死期が迫っている患者に対する医療のあり方

あなたご自身が治る見込みがなく死期が迫っている場合、

【問4補問2】

(問4で「2どちらか」というと延命医療を望まない」「3延命医療は望まない」をお選びの方に) この場合、具体的にはどのような医療・ケア方法を望みますか。お考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

「痛みを始めとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点を置く方法」が減り(般 59%→52%、医 84%→71%、看 83%→71%、介 75%→61%)、医師・介護で「自然に死期を迎えさせるような方法」を選ぶ人が増えている(医 13%→18%、介 21%→29%)。

あなたの家族が治る見込みがなく死期が迫っている場合、

【(一般)問6補問2】 (問6、5で「2どちらか」というと延命医療は望まない」「3延命医療は望まない」をお選びの方に) この場合、具体的にはどのような医療・ケア方法を望みますか。お考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

【(医療従事者)問9補問2】 (「2どちらか」というと延命医療は中止したほうがよい」「3延命医療は中止するべきである」をお選びの方に) この場合、具体的にはどのような医療・ケア方法が考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

「痛みを始めとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点を置く方法」が減っている(般 67%→54%、医 86%→74%、看 86%→72%、介 74%→55%)。

(7) リビング・ウィルと患者の意思の確認方法

【(一般)問14-1補問1, (医療従事者)問20-1補問1】

(リビングウィルについて1「賛成する」をお選びの方に) 書面による本人の意思表示という方法について、わが国ではどのように扱われるのが適切だとお考えですか。(○は1つ)

医師で「法律を制定すべきである」者が増加し(48→54%)ている。

【(一般)問14-1補問2, (医療従事者)問20-1補問2】

(リビングウィルについて1「賛成する」をお選びの方に) 死期が近い時の治療方針

についての意思について入院（入所）前、入院（入所）時、あるいは、入院（入所）後に、病院や介護施設（老人ホーム）から、書面により患者（入所者）の意思を尋ねるという考え方についてどのように思いますか。（○は1つ）

リビング・ウィルについて、「賛成する」と回答した者のうち、死期が近いときの治療方針についての医師について病院や介護施設から、書面により患者の意思を尋ねるという考え方に賛成する者は医師(68→77%)、介護(74→81%)で増加した。

【(一般) 問14-1補問3, (医療従事者) 問20-1補問3】
（リビングウィルについて1「賛成する」をお選びの方に）書面に残すとしたらいつの時期が良いと思いますか。

看護で「入院時」が増加(18→26%)し、「いつでもかまわない」者が減少(28→22%)している。

(9) 終末期における療養の場所

2) 脳血管障害や認知症によって全身状態が悪化した患者

【(一般) 問11, (医療従事者) 問16】

あなたが高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない状態になった場合、どこで最期まで療養したいですか。（○は1つ）

一般国民では「病院」を希望する者が増加し(38→44%)、「老人ホーム」を希望する者が減っている(25→15%)。

医師では「自宅」が減り(49→41%)、介護では「老人ホーム」が減っている(26→18%)。

【(一般) 問13】あなたの家族が高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない状態になった場合、どこで最期まで療養させたいですか。（○は1つ）

【(医療従事者) 問19】あなたの担当する患者（入所者）が高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない状態になった場合、どこで最期まで療養させたいですか。（○は1つ）

一般国民では「老人ホーム」を希望する者が減っている(17→11%)。
看護では「自宅」が増え(23→37%)、「療養型医療機関」が減っている(38→24%)。
介護でも「療養型医療機関」が減っている(26→15%)。

(10) がん疼痛治療法とその説明

【(医療従事者) 問11-2】

あなたは、モルヒネの使用にあたって、有効性と副作用について、患者(入所者)にわかりやすく具体的に説明することができますか。お考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

医師で「説明できる」者が減り(42→36%)、医師・介護で「説明できない」者が増加している(医 6→12%、介 59→68%)。

(11) 終末期医療体制の充実

【(一般) 問16、(医療従事者) 問22】延命医療を続けるべきか中止するべきかという問題について、医師と患者の間で十分な話し合いが行われていると思われませんか。(○は1つ)

【(医療従事者) 問23】あなたの施設では、終末期医療における治療方針について、医師や看護・介護職員等の職員間で十分な話し合いが行われていると思いませんか。

行われているとしたものが増加傾向であり、「十分に行われていると思う」とした看護(9→17%)、介護(9→27%)が増加している。